

勤医協中央病院病理科 初期研修ローテートカリキュラム

【はじめに】 近年 EBM の必要性が叫ばれているが、臨床医学は多くの場面で病理診断が診断治療方針決定の根拠となっている。病理診断はまさに EBM であることを肌で感じてほしい。

【研修目標】

- 臨床科と同じところ異なるところを感じてもらう。
- 標本作成過程を理解する。
- 病理結果問い合わせのしかたについて知る。
- 病理診断部門の病院での役割について学ぶ。
- 一般的に頻度の高い疾患の病理診断に触れる。
- なるべく現在進行形の検体にふれてもらう。
- 安全、環境・感染対策について学ぶ。

【具体的方法】

- 剖検は基本的に on call。
- 標本作成は組織、細胞診を 1 日技師について学ぶ。
- 頻度の高い典型疾患についてみる。
- [中枢神経] 脳血管障害、脳腫瘍 [頸部] 甲状腺乳頭癌、慢性扁桃炎 [呼吸器] 肺炎、肺癌、真菌症、じん肺、石綿肺 [消化器] 虫垂炎、胆のう炎、食道癌、胃癌、大腸癌、肝癌、慢性肝炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、H. pylori [腎・泌尿器] 前立腺肥大症、前立腺癌、IgA 腎症、糖尿病性腎症、アミロイドーシス [血液・リンパ節] 反応性過形成、悪性リンパ腫(DLBL)、骨髄腫、癌転移 [骨・軟部・皮膚] 脂肪腫、大腿骨頭壊死、関節リウマチ滑膜、アテローム [心・血管] 動脈硬化、心筋梗塞 [婦人科] 子宮筋腫、腺筋症、内膜癌、卵巣粘液性嚢胞性腺腫と腺癌
- 手術室に呼ばれたときはいっしょに行く。各種検討会や迅速診断に参加する。
- 組織学の学習も必要に応じて行う。

研修メニュー(一例)

	AM	PM	
月	ガイダンス、集団診断(カンファ)	きりだし、手術室	
火	集団診断(カンファ)、きりだし	標本作成見学	
水	集団診断(カンファ)、一次検鏡	指導医とともに診断、手術室	
木	集団診断(カンファ)、1000-剖検検討/抄読会	指導医とともに診断	
金	集団診断(カンファ)、一次検鏡	手術室、切除材料解説	まとめ 1715-腎カンファ
土	予備日もしくは休み		